第 30 回
川西市展入選目録

特 別 賞　青 木 賞（市 長 賞）

現代美術の部

「いつも会話のツールはスケボーだった」

Atelier　Madoka（川西市）

特 別 賞　平 通 賞（議 長 賞）

日本画の部

「桜」

羽田野　幸代（宝塚市）

特 別 賞　川西市美術協会賞

彫刻・立体造形の部

「６体の天使の猫

（Six bodies of Angels' cats)」

シュウ（大阪市）

□　部　　門　洋画、 日本画、 書、 彫刻・立体造形、 工芸、 写真、 現代美術

□　入選作品、審査員の講評は市ホームページ内の動画でご覧いただけます。

市ホームページはこちらから

主催　川西市

■洋画の部

一席　巨樹　太田　連

二席　ファミリー　坂田　稔子

三席　冬の葡萄小屋　久田　泰子

奨励賞　笹部の渓流　淀井　多美子
奨励賞　曲水の社 II　広瀬　敬三
奨励賞　凍れる　稲垣　泰造
奨励賞　陽のある風景　森永　節子
奨励賞　天神川沿いのサンシティホール　早川　博唯
奨励賞　野辺に刻降りて　渡辺　良子
奨励賞　バンドンの朝市　濱田　武文
奨励賞　花の行方　渕上　登美
奨励賞　東山の洋館　中島　広子

入選　舎羅林山から望む　中谷　幸雄
入選　雁木と浮き桟橋　森本　功
入選　手つなぎ　東　幸芳
入選　しでこぶし　戸田　喜代子
入選　中之島公会堂･秋景　増田　史男
入選　不滅の流れ　山本　良彦
入選　祝詞奏上　阪本　忠之
入選　紅の眺望　岡島　信博
入選　中之島遠望　倉本　晋匡
入選　エアポート　浦　政一
入選　船小屋（三方湖）　大槻　貞二郎
入選　春を待つ　黒田　公子
入選　水明台渓の桜　松井　宏二
入選　いにしえを偲ぶ　古閑　啓子
入選　港が見える坂　髙井　勝
入選　shall we dance？　岡村　明美
入選　Blonde horse　阪上　久美子
入選　ザ！鳴門　宮澤　猛
入選　老舗お店　赤尾　正武
入選　忘れられて、オブジェ　矢川　美由喜
入選　絆　池嵜　凌一
入選　早春の城趾　安久　進子
入選　急がねば･･･　小室　浩士
入選　珠玉･ローゼル　市川　良子
入選　残月　松井　靖
入選　古城　中本　通子
入選　ユリ　中尾　昇二
入選　木漏れ日の一日　鈴木　美代子
入選　牛と　芝　司信
入選　なかよしトリオ　野村　和男
入選　不確実な時代　髙須　栄一
入選　水の精･オンディーヌ　中瀬　俊介
入選　峻刻 II　新谷　栄二
入選　信州霧ヶ峰　川端　節子
入選　ひと時　吉倉　稲穂
入選　庭の宝石　野々山　蓉子
入選　西多田にて　吉田　髙明

■洋画の部つづき

講評　松村　一夫・大東　明宏

今年は少し小さな絵が目立ちましたが、多くの力が入った作品を見ることができました。
一つ欲を言えば、対象を写し取るだけではなく、作者の意図も感じられる「絵づくり」を意識すれば、より魅力的な作品になるのではないかと感じました。
一席「巨樹」は、太い幹の老木が立っている。樹肌についた苔が生きてきた長い年月を物語っている・・・。画面いっぱいに樹を捉えることで、長い歴史の空気を吸ってきた巨樹のつぶやきも聞こえてくるようです。背景もうまく処理されて主役の樹を引き立てています。
二席「ファミリー」は、油絵の重厚な作品です。六頭の牛が描かれていますが、それが一つのフォルムとなり、牛の模様も繋がって魅力的な表現になっています。足元の牧草から背後の山にまで広がる空間は緑色を中心とした美しい色調です。
三席「冬の葡萄小屋」は、白く柔らかな雪と暗い納屋の対比が、画面に緊張感を生んでいます。また、トタン板の壁やそれに立てかけられている木材、周囲のドラム缶など、どれも質感を意識して丁寧に描き込まれた力作です。
また来年も楽しみにしています。

■日本画の部

一席　桜　　羽田野　幸代

二席　何を見てんの　　河内　保

三席　紅梅　　道畑　常美

奨励賞　響き合う心　　竹澤　弘美

奨励賞　野辺の秋　　森﨑　康文

入選　美麗岩窓（びれいがんそう）　　久保　博義

入選　雪あそび　　建部　まや

入選　夏のおもいで　　増田　史男

入選　グラジオラス　　板野　英子

入選　祝福　　山本　富美子

入選　あかつき　　柚木　美恵子

入選　円舞　　井上　朋子

入選　雨上りのひこばえ　　松本　敏子

入選　雪中松月図（せっちゅうしょうげつず）　　植田　凱夫

入選　流氷～生きる～　　中本　通子

入選　海潤快気を祈る（かいじゅん）　　植田　公子

講評　井上　美紀・田中　達也

一席「桜」は、桜の木の描写もさることながら、背景の美しさに目を奪われました。箔を多用しながらも上品にまとめた画面から作者の桜の木に対する想いを感じとれた秀作です。
二席「何を見てんの」は、画面全体の隅々まで描き込まれている力強い作品です。反面全部が同じになり、やや単調になった感じがあります。どこかを光らす又は暗くするなど、大きな変化があると更に良くなると思います。
三席「紅梅」は、霧の中からうっすらと浮かび上がってくるような紅梅の姿がとても印象的でした。全体的に単調にならないようピンクや赤で色のメリハリがついていて、画面に心地よいリズムがありました。

■書の部

一席　送友人（そうゆうじん）　　畑本　英桃

（次頁に続く）

■書の部つづき

二席	七里灘	和田　掃花
三席	大内方舟詩（おおうちほうしゅうし）	小寺　翠恵
奨励賞	丹田（たんでん）	中島　久夫
奨励賞	大伴家持のうた（おおとものやかもち）	川口　登美子
奨励賞	心華（しんか）	福岡　淳
入選	五言二句（ごごん　にく）	阪口　翠秀
入選	徳川家康遺訓	鍋倉　京子
入選	哲学の小径（てつがく　こみち）	前田　都子
入選	少女達	福西　彰子
入選	雪晴（ゆきばれ）	永井　紅丘
入選	岑参詩三首（しんじんしさんしゅ）	丹羽　好美
入選	朝を愛す	筒井　淳子
入選	山行（さん　こう）	藤田　尚三
入選	趙孟頫詩（ちょうもうふし）	三浦　智恵子
入選	王安石詩（おうあんせき　し）	下村　友樹
入選	枕上　謝遵王詩（ちんじょう　しゃじゅんおうし）	髙橋　香華
入選	おきも世数（せず）	髙田　多恵子

講評　塚田　洮河・和田　英翠

今年の作品は全体に粒揃いで、甲乙つけがたくて大変でした。昨年よりレベルの高い作品が目に入りました。

一席「　友人」は、線の出し方が良く出来ています。鋭い所と字の太い細い、又は字の大小が出来ていました。

二席「七里灘」は、一席と違ってどっしりとした字で横文字の難しいとする行間が良く出来ていました。どっしりと字の運び、バランスが良く全体に調和され良かったです。

三席「大内方舟詩」は、真っ直ぐに美しく出来ていましたが、欲を言えば字の横幅で大小をつければ一席に行くことが出来るように思いました。もっと力強く墨を入れると良いかもしれません。また、最後の落款までが作品です。しっかりと押す位置を工夫してください。

来年の皆様の作品が楽しみです。力作を期待しています。

■彫刻・立体造形の部

一席　6体の天使の猫
(Six bodies of Angels' cats)　シュウ

二席	先を思う	神山　美登里
三席	ブンブン遊び	竹内　清
奨励賞	にわとり親子の箱庭	横山　豊
奨励賞	Crystal	松浦　良明
入選	二十八部衆・迦楼羅王立像（にじゅうはちぶしゅう　かるらおうりゅうぞう）	川島　實
入選	ステンドグラス　ランプ	井上　義和
入選	ウエディング・ツリー	加藤　高志
入選	ウロコ屋根の家	浅井　雅一
入選	吉祥天立像（きっしょうてんりつぞう）	山本　厚子
入選	四年（よとせ）の学び	細川　忠夫

講評　堀野　利久・長野　久人

今年の出品は11点でした。

一席「6体の天使の猫(Six bodies of Angels' cats)」は、昨年、大阪北新地ビル殺人放火事件の鎮魂を願って作った作品であると作家はコメントしています。麦わら帽子を使って作られた猫は、斬新であります。目は、刃物でキリリと切られて鋭く、この事件への怒りともとれる表情は、現実への批判とも取れます。6体の天使の猫は、作者の思いをやさしく語りかけており、力強いと感じます。今回の市展でこの作品に出会うことができて良かったです。

二席「先を思う」は、今の時代を考え思い思案する人を表現されています。思う姿、悩む心、先を考える力強さ、確かな造形力で実力のある作品です。

三席「ブンブン遊び」はイタチがカナブンを紐で結んで遊んでいる作品です。いたずら好きなイタチを擬人化して、木彫りでつくられた像は上を向き、ぴったりとカナブンに焦点があっています。紐で結ばれたカナブンの浮遊感が良いです。

■工芸の部

一席　鍾馗さんに願を込めて　　乾　恵

二席　歌いくらべ　　羽倉　正

三席　栃拭漆盛器　　松井　宏二

奨励賞　蒔絵硯箱　　池之浦　大起

奨励賞　藍型染・タペストリー芙蓉　　前田　道子

奨励賞　カレル橋とプラハ城　　東野　昭

入選　壁かけ「バラ」　　堂見　和子

入選　感謝　　濵口　葉子

入選　青碧の随に　　植山　和美

入選　なんやねん？　　池嵜　凌一

入選　影　　梅﨑　裕美子

入選　妖怪達の巣窟　　山下　勝

入選　情熱の国から　　真柄　あゆみ

入選　フクロウのランプ　　浅井　雅一

入選　青不動　　森島　紀明

入選　喜寿祝いのプレゼント　　権藤　二三子

入選　宝石箱　　荒木　三郎

講評　熊本　一哉・泊里　涼子・堀内　晴美

一席「鍾馗さんに願を込めて」は、川西市展を代表するお一人の作家さんです。私自身毎年楽しみにやって来ますが、期待以上の作品でした。こんな鍾馗さんがいらたコロナも退散するでしょうね。表情がとても素敵です。細かいところにも注意し、丁寧に制作されているのがよく理解できる秀作です。

二席「歌いくらべ」は、二羽のフクロウが一生懸命、どうだ上手だろうと、歌い合っている様子が想像できる楽しい作品に仕上がっています。

三席「栃拭漆盛器」は、何よりも完成度の高さが秀でた作品で感心いたしました。拭漆によって栃材の杢目を際立たせ、滑らかな表面は思わず触れてみたくなる魅力があります。また、ふちの面取りがシンプルな器の形状を引き締めています。ご本人のコメントにもありましたが、大変な手間をかけられた力作だと思います。今後の制作活動に期待しております。

■写真の部

一席　リフレクション　　宮脇　雪子

二席　朝陽　　数藤　守治

三席　川面の怪人　　常木　良一

奨励賞　Fantasy　　前田　千代子

奨励賞　貪欲　　西村　謙之助

奨励賞　冬日射す　　上月　正美

奨励賞　山寺　　春元　昌三

（次頁に続く）

■写真の部つづき

奨励賞	覗き見	清水　和男
奨励賞	木漏れ日の悪戯	天井　博章
奨励賞	光りの向こうに	桑原　弘子
奨励賞	秋田刈る	松尾　忠明
奨励賞	始動	牧　孝三
奨励賞	雄叫び	田中　富士夫
奨励賞	Want to climb…どこまでも	なかにし　宏明
奨励賞	御輿(おこしき)来海岸	魚谷　行重
奨励賞	天空の花園	太田　茂範
奨励賞	再開発	竹本　賢一
奨励賞	咲き競う	丹生　隆
奨励賞	京暖簾	田中　孝
入選	冬日射す	前田　安活
入選	晩秋	岡村　佳代子
入選	父さん頑張る	薄井　研司
入選	ゆらゆら	梅﨑　光政
入選	散歩	武田　昇
入選	視点	桑名　弥栄
入選	東雲(しののめ)や染まる二人に春きざす	前田　弘志
入選	レトロな理容院	藤本　昌平
入選	そよ風のいたずら	岩井　健次
入選	波紋	上柳　恒雄
入選	里山のハーモニー	田島　孝雄
入選	ハッスル	永野　晃造
入選	種子旅立(しゅしたびだち)	渡邊　定子
入選	春を待つ	川西　良樹
入選	早春賦(そうしゅんふ)（雪と紅梅）	山田　洋三
入選	秋舞い降りる	古川　和男
入選	雪ぼたる	長沼　利彦
入選	寸光(すんこう)の凍滝(いてたき)	木下　勇
入選	湧きいづる	本田　健二
入選	人流(じんりゅう)	金泉　萬楽
入選	陽照(ようしょう)のふたり	芦田　芳郎
入選	湧雲(ゆううん)	近藤　孝典
入選	アタック	宮地　種光
入選	仲良し三姉妹	高岡　清
入選	SunnySide of the Street	阿部　信夫
入選	春よこい	安田　二朗
入選	日々青春の夢甲子園	仁井田　精司
入選	サンタさん来るかなぁ	石津　顕
入選	壁画と女性	加藤　昭代
入選	水面模様	宇田川　洋二
入選	キノボリトカゲの綱渡り	畝村　豊明
入選	里山に集う	成平　博
入選	ゲリラ豪雨	羽田　範子
入選	カートに乗って	柏木　浩
入選	初夏の訪れ	馬場　和正
入選	良い人生だったネ	佐藤　千鶴子
入選	薄暮(はくぼ)の灯(ともしび)	菅野　みね子
入選	はつらつ！川西っ子	長原　恭子
入選	黄金の楼閣	菊池　惇一
入選	帰還	山辺　幸男
入選	静寂	亀田　政彰
入選	テリトリー	桑原　実
入選	たかいたかい	名桐　昭次
入選	コロナ禍～ひと時の安らぎ～	清水　晴夫
入選	昼下がり	江口　裕治

（次頁に続く）

■写真の部つづき

講評　古家 輝雄・クキモト ノリコ

昨年に続きコロナ禍での写真部門は、日常の何気ない一コマに感じる小さな幸せや、久しぶりに出かけた開放感が伝わってくる作品が多く寄せられたように思います。そのような場面を写真で撮る楽しさ、また記録として残すことの大切さを改めて感じさせてくれる作品の数々でした。

一席の「リフレクション」は、ビルの写り込みですが、望遠レンズの効果を活かしてデザイン的な視点で切り取られ、2点のバランスも良い作品です。プリント用紙の選び方も含めて非常に完成度が高く、選出しました。

二席の「朝陽」は朝靄の立ち込める中に差し込んだ光をうまく捉え、その場面だけでも非常にドラマチックですが、犬の散歩をする人の歩幅とくるりと愛らしい犬のしっぽに、日常に潜むドラマが感じられる作品です。

三席の「川面の怪人」は、水面に映り込む西洋風の建物を窓の位置まで意識したシャープな構図で写し撮られているので、建物の存在感が強い作品ですが、反映の形が水面のゆらぎから歪の虚像の面白さに繋がっています。作者の表現力の意識の冴えを感じるのは、映り込み作品としてストレートに見せるのではなく、美の観念を越えて、実像のごとく上下反対にして、絵画風に見せ独特の表現力です。

■現代美術の部

一席　いつも会話のツールはスケボーだった Atelier Madoka

二席　CONNECTION II　　簑原 侃子

三席　spread　　南谷 喜彦

奨励賞　夢の跡　　畠山 忠美

奨励賞　変化球攻撃　　石田 貢

奨励賞　white out　　松浦 良明

入選　曼荼羅（まんだら）　　西川 輝彦

入選　和2022　　高野 暢子

入選　愛でる　　上田 正子

入選　魚達の午後　　中嶋 恭子

入選　楮（こうぞ）の川さらし　　浦辺 民子

入選　前進　　柚木 美恵子

入選　さんぽ　　桑垣 和弘

入選　支配される光　　高阪 孝子

入選　創発　　鈴木 基光

入選　幻想に遊ぶ　　赤木 政則

入選　RAIMEI　　塚本 秀之

講評　森 倫章・神野 翼

現代美術というものは、作品と言説が一つとなって表現として浮かび上がってくるもので、一席の作品である「いつも会話のツールはスケボーだった」は題名からもコンセプトが立ち上がってくる良作であると言えます。

昨今オリンピックの種目となったスケボーを会話のツールとして使う時代性は目に新しく、さらには蛍光色やビビットなトーンの絵具を多用した視覚的な目新しさも持ち合わせるなど、作品の観点、技法の両輪から優れた表現をなされたものとなっていました。

二席の「CONNECTION II」は技術の高さが見て取れる作品となっており、豊かなマチエールから立ちのぼるディティールは色彩の奥深さと相まって完成度の高い作品となっています。

三席の「spread」はレディメイドとも言える作品で、ある種役目を終えた無用の道具に美術としての有用の機能を与えたものとなっています。さらには、題名の持つ『展開』という意味合いが作品の持つ現代性を浮かび上がらせています。

全体の総評として、賞として選出された作品は、ただそこにあるだけでなくコンセプトの中に現代の持つ時代性を内包させたものが選ばれました。

徒らに線を引くだけでは絵にならず、そこに時代性の伴う作家の思いが言説とともにあるのが現代美術となり得るのです。

◆　各部門審査員　◆　　（順不同、敬称略）

＜洋画＞
松村　一夫・大東　明宏

＜日本画＞
井上　美紀・田中　達也

＜書＞
塚田　洮河・和田　英翠

＜彫刻・立体造形＞
堀野　利久・長野　久人

＜工芸＞
熊本　一哉・泊里　涼子・堀内　晴美

＜写真＞
古家　輝雄・クキモト　ノリコ

＜現代美術＞
森　倫章・神野　翼

◆　特別賞審査員　◆

川西市長	越田　謙治郎	川西市議会 議長	久保　義孝
川西市美術協会 会長	鳥居　蘰	(公財)宝塚市文化財団 理事	大野　良平
川西市市民環境部長	岡本　匠		

◆　特別賞について　◆

特別賞の青木賞、平通賞は、昭和を舞台に活躍された川西ゆかりの芸術家に因んで名づけられました。

青木賞は、青木大乗（あおき　だいじょう）画伯の名前をいただきました。青木画伯は、明治24年大阪に生まれ、新燈社洋画研究所、卯木に大日美術院を開き、洋画から日本画へと世界を広げました。戦後、川西に移り住んで創作活動を続け、昭和54年に亡くなられました。

平通賞は、平通武男（ひらどおり　たけお）画伯に因んでいます。平通画伯は明治40年大阪に生まれ、新燈社にて青木大乗画伯に師事。東光会審査員から日展審査員へと洋画の世界で活躍を続け、戦後は川西に住まわれ、日展参与となられた後、平成3年に亡くなられました。

両画伯のご遺族により、川西市に青木大乗画161点、平通武男画146点の絵画が寄付され、川西市郷土館内に両画伯の記念館「ミューゼ　レスポアール」が平成７年に開館し、両画伯の絵画を鑑賞できます。

また、第25回川西市展時に川西市美術協会賞を新設し、青木賞、平通賞と同じく一席の作品の中から選出しています。

◆　第30回川西市展応募状況等　◆

部　　門	出品点数	入選点数	入賞点数
洋　　画	70	49	12
日 本 画	16	16	5
書	18	18	6
彫刻・立体造形	11	11	5
工　　芸	17	17	6
写　　真	103	64	19
現代美術	17	17	6
合　　計	252	192	59